

第3回 茨木市総合交通戦略策定協議会 会議録

1 日 時

平成 25 年 1 月 29 日（火）午前 10 時～12 時

2 場 所

茨木市福祉文化会館 3 階 303 号室

3 出 席 者

別紙出席者名簿のとおり

4 欠 席 者

猪井副会長、池田委員、小林委員

5 開催形態

公開（傍聴者 6 名）

6 次第及び議事の内容（概要）

（1）開会（柴崎副市長挨拶）

- ・昨年 11 月に実施したアンケートの結果報告を行い、これまでの議論を踏まえて長期的な都市交通計画の素案を本日お示しする。みなさまの忌憚の無い意見をいただき、実りある議論にしていきたい。

（2）委員紹介

〔事務局（市）より委員の交代に伴う新委員を紹介〕

（3）議事 1：市民アンケート調査結果について

〔事務局より市民アンケート調査結果の説明〕

（委員）

- ・山間部、丘陵部、平野部のアンケート配布数を人口で割ると、山間部では 3 人に 1 人、丘陵部では 33 人に 1 人、平野部では 104 人に 1 人である。全市に占める人口の割合は大きく違うので、アンケート結果を山間部、丘陵部、平野部で全て同列に扱わないように気を付けなければならない。

(事務局)

- ・アンケート配布数は、人口に比べてアンケート調査の数が多い、少ないということではなく、これくらいの回答数が得られればほぼ有意な分析ができるという前提で決めている。

(会長)

- ・アンケート配布の考え方は色々ある。たくさんお住まいのところは若干抽出率を下げて、推計精度はあまり変わらず、人口の少ないところにおいては精度を確保するため、若干高めの抽出率とする。そのため、山間部の抽出率が高くて平野部の抽出率が低いことは、理に適っている。
- ・回収票は少ないところで 500 票、多いところで 700 票を超えているが、このくらいあれば資料のような簡単な単純集計やクロス集計に加え、もう少し詳しいクロス集計も可能であり、この抽出方法は悪くない。市全体を同じ割合で抽出すると、山間部における分析が難しくなる。
- ・もし山間部を優遇するのであれば、それは政策として行われるものであり、このアンケート調査票の回収数でもって決めるものではない。

(委員)

- ・自転車利用の意識啓発やマナー教育についての賛成意見が多い結果が出ているが、自転車道がないということはとても危険なことではないかと思う。アンケートの中では、みなさんの意見が車線を減らしたくない、街路樹を減らしたくないということで反対が多かったことが少し気になっている。

(会長)

- ・市民の意見であり、これは意見として受け止めていきたい。

(4) 議事 2：将来の交通体系づくりの基本方針について

議事 3：長期的な都市交通計画（素案）について

〔事務局より議事 2 及び議事 3 の検討内容について説明〕

(委員)

- ・年をとった母親が車いすを利用しているが、小さい段差が危ないことがよくわかる。

(委員)

- ・特に山間部では、将来の移動手段の確保について不安というアンケート結果が出ている。山間部は高齢化率が高く、移動手段がない、また、限界集落では買物難

民が増えているという話を聞くことも多い。将来的に自動車が使えなくななくなった時に、移動手段をどのように確保するかについて検討が必要である。

(会長)

- ・バスを利用する人、利用しない人の両方から運賃と運行本数の改善希望が多いが、バスは利用しないと残らないものである。私は乗らないけどあったら便利ということでは、市民のみなさんの意見とはいえ、説得力がない。そのところは十分に考えていかなければならない。

(委員)

- ・18 ページにも書かれているとおり、公共交通の活性化や維持を求める一方で、依然として自動車の利用が多いと日頃から感じている。J R 茨木駅でも少しずつ鉄道利用者は減っているが、人口は減っていないので公共交通から自動車へ変わる人が多いと想定している。自動車よりも公共交通を利用するという意識改革は長期的には効果があるが、自動車を使うのは自動車が便利なためで、短期的には公共交通を便利にしないと、公共交通を使いましょうと言ってもなかなか使ってもらえない。
- ・茨木市の丘陵部、平野部について、バス、電車の本数は他の地域と比べても多いほうであると思う。交通結節点での乗り換えをしやすいように、車でなくてもバスと電車で乗り換えていけば便利にいけるという環境を作ることが必要である。
- ・交通結節点をもう少し便利にしよう、増やしていこうということを、もう少しはっきり書いてもよいと思う。例えば、乗換拠点となるバス停を増やすことや、バス停に自転車置場をつくる等も考えられる。
- ・車の渋滞が問題という声もあるが、便利な道路を増やすとなると、別の見方をすれば、車を使いましょうということになりかねない。例えば、駅の周辺でバスが渋滞で動かないところに絞って、道路を良くしていくことができればよい。

(委員)

- ・山間部の路線について、収支の改善に早急に取り組まなければいけないという課題がある。長期的ではなく、短期的な施策としてこちらから提案しなければいけないこともある。

(委員)

- ・自転車の交通マナーについて、学生や市民へPRすることも大事だが、街頭に立って指導するということも重要である。

(委員)

- ・わかりやすい資料で、ここに書かれていることはこの通りになれば良いと思う。

どのように進めていくのか、目標をどこに持っていくかについてはこれからの議論によって変わってくると思う。これからの個別の案件に対し、意見を述べさせていただきたい。

(委員)

- ・山間部において色々な意見が出ているが、施策について採算ベースに乗るかどうかがとても大事である。資料3は理想的な姿であり、これについては何の意見もない。だが、今後具体的な話になり、何もかもが理想のところになってしまうと、お金がもたないことになる。投資効果が見られるかという観点も重要である。

(委員)

- ・国道171号の渋滞について、茨木市以東の地域で右折レーンが十分に整備されていない。どこから交差点改良を行うかの優先順位について、検討会を設けながら策定することとしており、ここでの交通戦略も参考にさせていただきたい。

(委員)

- ・バスでの移動も大事であるが、公共交通としてタクシーも重要な役割を担っていることと意識し、連携をとりながら進めていただきたい。

(委員)

- ・タクシーは金額が高いこともあり、利用者からは電車やバスが優先され、タクシーを利用されるお客様は、高齢者、障害者、緊急を要する方が多い。今後、地域に密着したタクシー事業を展開していくこととしているが、デマンドタクシー等、色々な形で協力していきたい。

(委員)

- ・9ページの安全な歩行空間と13ページの交通結節点のバリアフリーの表現について、感覚的には、まず9ページに一般論としてバリアフリーのことを書いたほうが良いと思う。結節点のバリアフリーも重要であるが、バリアフリーも含めてそれぞれのモード間の利便性を向上させていくこととしてはどうか。

(委員)

- ・自転車通行について、警察、地域、市役所と合同で継続的に街頭での指導を行っているが、イヤホンで音楽を聞きながらの運転や傘差し運転等を注意しても、禁止されていることを知らないことがある。

(事務局)

- ・バス事業者の採算ベースの話がある一方で、山間部の方々の移動の確保の話があ

ったが、まさにトレードオフの関係であり、そういったことをどうするかがこの戦略会議になると思う。お互いに話を聞き、市がどこまでやるべきかや目標等を定めていければと思う。

(会長)

- ・長期計画は理想的なことを書いており、正論である。ただし全て実現しようとする、色々なところで問題が発生する。この計画を実現するための手段をどういう形で検討するか。長期計画については、見通しが立たないこともあるが、5年先、10年先の短期計画や中期計画であれば、目的と手段がきちんと組み合わせられなければ前に進めない。その点は注意していただきたい。
- ・また、細かい点になるが、通過交通の抑制についてどのような方法が茨木市の場合に適切かを考え、具体的な施策を打ち出していく必要がある。

(委員)

- ・今回の長期ビジョンはよくまとまっていて、バランスもとれていて非常にいい長期計画と思う。会長の話とも関係するが、現状から目指していく方向への変換を今後どのように進めていくかについて、具体的な議論をしていきたい。

(委員)

- ・基盤整備も含めて考えていくという点では時間がかかるかもしれないが、20年という期間があるので、最終的には、茨木市をどういうまちにしていけるかが大きなポイントである。将来の基盤整備を含め、交通のあり方を考えていかなければ、車と公共交通の分担が中途半端になり、整理がつかない。
- ・思い切って、中心部について公共交通利用者のこと、歩行者、自転車等のことを中心に考えた戦略を茨木市で作っていただければと思う。

(5) 議事4：その他

〔事務局より今後の検討の進め方として、来年度に部会を開催することについて提案（部会の詳細については次回の協議会で提示）〕

(委員)

- ・JR茨木の駅前整備の検討を進めていくと聞いた。駅前広場については、階段を降りないとバスに乗れない、バリアフリーのもっとも悪い例なので、そういうものが改善されるといい。今後の部会では、基盤づくりも視点に入れていただきたい。

(委員)

- ・平野部のバス利用は少ないが増える可能性があるというアンケート結果だが、色々なことをやっていかなければいけない。道路の整備や 13 ページのまちづくりと一体となった駅前の整備など事業者だけではできないことが多く、行政も含め総合的な施策展開が重要であると思う。

（６）次回の開催日程

（事務局）

- ・次回は３月 22 日（金）に開催する。

第3回 茨木市総合交通戦略策定協議会 出席者名簿

(敬称略)

【委員】

塚口 博司（立命館大学理工学部都市システム工学科 教授）：会長
林 高（市民）
上村 智子（市民）
平野 剛（西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京都支社総務企画課 地域共生室長）
庄 健介（阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部 部長）
西山 哲（阪急バス株式会社 取締役自動車事業部長）
（代理：野津 俊明 自動車事業部副部長兼営業計画課長）
西村 昌之（近鉄バス株式会社 常務取締役営業部長）
（代理：田上 一則 営業部乗合営業課課長代理）
北西 進太郎（京阪バス株式会社 企画部長）
迫田 謙典（一般社団法人大阪タクシー協会 副会長）
越智 啓伸（大阪府民の交通環境を良くする行動北摂地区実行委員会 茨木地区代表）
大浦 毅（茨木市身体障害者福祉協会 会長）
藤本 典昭（NPO 自転車活用推進研究会）
吉澤 勇一郎（国土交通省近畿地方整備局建政部 都市整備課長）
（代理：田中 克己 都市整備課課長補佐）
青山 淳（国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所 地域調整課長）
南條 正幸（国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門 首席運輸企画専門官）
黒田 唯雄（国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門 首席運輸企画専門官）
森岡 武一（大阪府都市整備部交通道路室道路整備課 参事）
泉谷 直紀（大阪府茨木警察署交通課交通規制係 警部補）

【市（事務局）】

柴崎 啓二（副市長）
大塚 康央（都市整備部長）
野口 正博（建設部長）
鎌谷 博人（建設部次長兼道路交通課長）
岸田 茂樹（建設部副理事）
田邊 武志（都市政策課長）
馬場 克二（都市政策課参事）
砂金 隆浩（道路交通課係長）
谷本 将一（道路交通課主査）
林 治孝（都市政策課職員）